1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373000136		
法人名	有限会社K＆Kプロデュース		
事業所名	グループホームまきびの丘		
所在地	岡山県倉敷市真備町市場303-1		
自己評価作成日	平成24年9月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3373000136-00&PrefCd=33&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ハートバード	
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室	
訪問調査日	平成24年10月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症高齢者が生活をするうえで生活の場である空間を整備することが大切であると考える。人間のみならず生物は全て環境適応力を持っており、意識するしないに関わらず環境の影響を受ける。したがってわれわれが目指すところは毎日飲用する水に着目、還元水を精製する機器を導入し、アルカリ水は飲用・調理に、酸性水は冬場の加湿（空間除菌用）・掃除にと幅広く活用している。またインフルエンザ、ノロウイルス等感染症対策としてオゾンと紫外線による空間をダブル除菌する機器を導入し生活空間を快適なものにしている。平成22年度は玄関に、23年度には各棟に1機器づつ増設しますます充実したものにした。さらに次亜塩素酸水を活用し、空間除菌にも力を入れている。また周囲の閑静な住環境に加え、建物の構造面では天井を高く、広くすることでゆったり、落ち着いた空間を演出し、入居者の方の心身の安定をもたらしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

のびのびと暮らす利用者、穏やかでゆったりと対応する職員が印象的な事業所である。緑豊かな丘の中腹にあり、広い敷地には四季の草花や野菜が随所に植えられ、屋外の談話スペースでは、利用者がコスモス畑を見ながら談笑する風景を目にした。玄関や廊下には、利用者や地元画家の作品がバランス良く飾られている。リビングには利用者と職員が共同で作った季節の大きな作品もあり、建物内は賑やかであるが、ごちゃごちゃせず、すっきりとしている。空間除菌の装置もあり、健康で心豊かに過ごせる住環境作りにいかに力を入れているかがわかる。また、日々の介護記録には、利用者の心の動きがわかる記述が随所に見られ、身体の健康管理だけでなく、心のケアを大切にしているのがうかがえる。開設から7年半を経過する、当地区では最古参の事業所であるが、代表者の子息が社会福祉士の資格も取得し、4月から施設長となり、個別ケアをますます充実させている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、理念及び介護者の心構えとしての誓い文を全員で唱和し、徹底を図っている。また事あるごとに、職員会議等を通じ介護に対する考え方姿勢を浸透すべく力を入れている。	健康でいられるのが幸せという考え方に基づき立案された理念を実現しようと、生活環境面を整備すると共に、介護はサービス業であるとの姿勢を、繰り返し管理者が職員に話している。個々の生活時間に対する配慮などが、以前より改善されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会及び幅広いボランテイアの方々に来訪頂き、広く交流している。また地域の夏祭りなどに参加し、地域とのつながりを感じていただけるようにしている。	地理的に民家とは離れているが、従来からのボランティア来訪に加え、折り紙のボランティアも増えた。また、地元バンドを招いた事業所行事へ近隣住民がやって来たり、利用者と共に地域の祭りへ行ったりと、新たな地域交流ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近くの幼稚園児とその親御さんと一緒にコスモスの種まき、花の見学を行い、互いに触れ合うことで認知症の人の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの取り組み等について周知いただき、地域の方々との交流の場となっている。また、会議を通して認知症についての理解が深まり、意見交換が活発に行われ、そのことは大いにサービス向上に向けて生かされている。	行政、社会福祉協議会、町内会長、家族会代表など、幅広いメンバーで構成されている。地域の他の事業所の様子や制度の変更点を聞いたり、事業所の重点取り組みを説明する以外に、毎回、孤独死などのテーマを用意して、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や提案について行政担当者と連絡を取りあっている。また運営推進会議にも出席を頂き、様々な情報を頂くと同時に行政に対する要望なども受け付けていただいている。	市、地域包括支援センターともに運営推進会議に参加している。会議での意見交換から、高齢者の介護ボランティア制度の改善案等を市に打診している。書類を持参するなど、直接顔を合わせる機会を確保し、関係継続・強化を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を常時開放することはもちろん、職員会議を通じ、身体拘束について勉強し、身体拘束をしないための方策を考えている。	器具を使う身体拘束は、一切見受けられない。玄関、居室の窓など、すべてが開錠、開放され、自由に外に出られる。庭でくつろぐ利用者もいた。しかし、職員の「ちょっと待って」のような言葉を時折、耳にした。	前回の身体拘束に関する勉強会から1年近く経っている。特に新入職員については、研修や会議の場で、具体的に何が身体拘束になるのか、言葉も拘束につながる、という認識が高められるよう、期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議を通じ、何が身体拘束、虐待にあたるのか共通認識を持ち、その防止について勉強し、話し合いを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらに関係する事柄が無かったので実践できていないが、今後クローズアップされてくるものと思われるので、理解や活用に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、契約内容について説明を行い、また改定等変更事項があった場合は、家族会や文書等で説明を行い理解、納得を得るよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のメンバーを同意を得て公表し、いつでも会長を通じたり、直接職員、管理者、施設長へ意見、要望が進言できるよう努めている。	意見、苦情は真摯に受け止め、管理者は職員一人ずつに面談して解決策を考え、本人や家族に反省と今後の対応策を伝えている。管理者が積極的に利用者に話しかけ、本音を引き出すと共に、家族会議を定期的に開催し、要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換の場を設け、施設の運営に関し疑問、提言があったら管理者、施設長に直接進言するよう常に働きかけている。	毎月の職員会議には代表者、管理者が必ず出席し、職員の声に耳を傾け、できることはすぐに改善している。家庭との両立ができる職場となるような対策も講じ、5年以上勤務している職員が半数以上いる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護労働センターや労働局の主催する研修に積極的に参加し、そのような方向で常に職場環境、条件の整備が出来るよう知識の習得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修には職員の力量に応じ、積極的に参加することでスキルアップの機会を設けている。また、ホーム独自に資格取得助成制度を設け、個々人が向上できる環境を整備し、助成もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者等連絡協議会に加入し、同協議会が主催する研修や分科会に参加することで、交流の機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、バックグラウンドを通じ、まず入居者のことをしっかり熟知することからスタートし、入居者が困っていること、不安に思うことを最優先にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から状況、要望を聞き取り、不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、ご家族及び入居者の不安を取り除くことを最優先で考えている。その後、状態等に変化があれば、ご家族に相談した上で、臨機応変の対応を考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まきびの丘の介護方針並びに会議等を通じ常日頃から入居者との接し方について話し合っている。また「共に生活をする」という視点を大事に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との密な関係を作れるよう家族会、面会等を通じ、共に支えていくという視点を共有できるように関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのベッド、家具等の持ち込みを促したり、近隣の友人、知人の方が来荘しやすい雰囲気づくりに努めている。	面会に来た来訪者に、お茶を出し、椅子を用意して、利用者が希望する場所で、ゆっくりと話ができるように配慮している。また、各利用者の生活歴を本人や家族から聞き取り、話のネタにし、積極的に思い出話をしてもらうように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両棟の入居者が互いに交流しやすいように、ウッドデッキを整備している。冬場にはそこにビニールを張って、防寒対策をし、常に入居者お互いが触れ合える場所として提供に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り、関係維持に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意思を尊重し、可能な限り本人本位の個別ケアを実践している。	花の好きな利用者には、一緒に花を摘んだり、花瓶に活けてもらったりという具合に、各人にとって楽しみや満足感があり、かつ残存能力を活かせるよう工夫している。日頃から心の動きに注目した介護記録に努めることで、職員は本人の意向を慮る能力を高めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで利用されていた施設の担当者から、状態の把握や要望などを情報収集したり、ご家族に記入いただいた部分と聞き取りにより出来たバックグラウンドに基づき、入居者の生い立ちや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケアカンファレンス、ケアチェック、モニタリングを行い、現状把握、将来に向けてのサービス計画に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、またご本人の希望をベースに、関係者全員参加で介護計画を作成し、状態の変化に応じた計画に随時更新している。	介護計画は具体的かつ詳細で、家族にもわかりやすい内容となっている。毎月の職員間でのカンファレンス、細かいモニタリングと本人や家族の意向を踏まえ、半年ごと、もしくは病気や状態変化があれば、その都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートで職員間の連絡を密に、個人ごとの情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態はもちろん、ご家族の状況やご要望に合わせた看取り介護を実践したり、その他ニーズに応じた柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の数多くのボランテイアの方々の訪問を受け一緒に楽しく、和やかなひと時を共に過している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療に理解のある主治医が、希望される大半の入居者の健康状態について把握してくださっている。また、月2回の定期往診で健康維持を図っている。	定期往診があり、夜間や看取りにも対応してくれる協力医が安心で便利だと、多くの利用者がかかりつけ医を協力医にしている。気軽に相談でき、利用者の体調によっては、すぐに往診してくれるので、早めの対処ができる。他の医師にもできるだけ職員が同行し、状態の報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録、連絡ノート、引継ぎにより適切な受診が受けられるよう支援している。また、毎日健康で過ごして頂けるよう看護師の看護記録を活かし、介護職員が各入居者の共通の身体状況情報を得ることができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院については主治医や看護職員、介護職員が必要な情報提供を行い、安心して医療機関にかかれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族、本人と看取り介護についての意向調査を行い、ご家族の現状況、意向を把握し、対応に取り組んでいる。また実際に看取りに入った場合には、入所時契約書と同様、随時看取り意向の確認を取っている。	この1年に2件の看取りがあった。本人や家族としっかり話し合い、その後も常に意向を聞き取っている。医師、看護師との連携体制も確立している。また、看取り介護時の夜勤帯は、看護師や管理者が頻繁に訪れ、職員が一人になる時間を極力減らし、精神面の負担を軽減している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について介護日誌にファイル保存し、全員が常日頃から知識を習得できるように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火設備等災害対策に必要な確認項目を打ち合わせ、発生時の緊急連絡等確認している。今後さらに地域との連携体制の強化に努める。火災については「まず火を出さない」ことを徹底的に教育している。	利用者の移動介助方法に応じて色分けしたテープを居室入口に貼り、避難経路図にも各居室の色を掲示し、外部の救助者にもわかりやすい。スプリンクラーも設置した。しかし、消防署への通報方法など、全職員の熟知には至っていない。	夜間想定の避難訓練と、全職員への緊急通報装置の使用法や避難経路の徹底を期待したい。また、火災以外の災害対策も期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で可能な限り、個々の意思を尊重し、対応を心掛けている。また入居者と職員の信頼関係構築のため、職員間で対応の成功例を話し合うなどしている。	「言葉がけは親しみを込めて丁寧に」が徹底され、どの職員も穏やかな口調で利用者に話しかけている。利用者が嫌がることに対しては、その原因とふさわしい対応方法を職員間で共有して、各人に見合った尊重ができるよう、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の生活上の役割（居場所の確保）分担を可能な限り促すような声掛けをし、自己決定には見守り支援で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まきびの丘の介護方針にのっとり、その人が希望するその人らしい生活のペースを実現できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気をつけ、衣服にふけ、髪の毛、食べこぼし等付着してないかチェックしている。また、定期的に近隣の理容師さんが来られ散髪をし、馴染みの関係となり、おしゃべりも楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	持てる能力に応じ、個々に自己実現の場を提供している。例えば、野菜の皮むき、お盆拭き、食卓台拭き、食後のお盆の片付け、手指消毒等を行ってもらうことで、協同意識が生まれるようにしている。	一部の利用者がテーブル拭きや下膳を行っていた。料理が家庭的な陶磁器の食器に彩り良く盛り付けられ、職員も一緒にテーブルを囲む。利用者からのカップ麺やスナック菓子のリクエストは、おやつで対応する。利用者と一緒に作るおやつも多く、楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については管理栄養士がいる業者から食材の提供を受けている。水分量の確保の重要性を職員間で共有し、摂取いただくための様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後や就寝前に、口腔内を清潔に保持するようにケアを行うと同時に、レクリエーションの時間に口腔体操を取り入れ、嚥下など口腔機能を向上させる取組みも行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてはなるべく薬に頼らず、出来る限り自発的に排泄出来るように努めている。また、日々の健康管理表をもとに排泄のパターンを把握し、適切なタイミングで声掛けできるようにしている。	各人の排泄パターンや仕草から、そっと声をかけ、さりげなくトイレへ誘導している。おむつ外しの勉強会にも参加し、工夫しているが、身体機能の低下で、失敗が増える傾向にあり、いかに早く察知し、不快な時間を短くするかにも注力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者については、便器に座ってから腹部に「の」の字マッサージを行うようにしたり、多めに水分摂取を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々人の意思を重んじ、希望やタイミングを考え支援している。	3日に1度の入浴を基本としているが、入る順番などはできる限り要望に応じている。窓からの日差しで明るい浴室は、利用者から喜ばれている。一人ひとりの入浴時間をゆったりとり、入浴中は話をしながら、くつろいでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望にもよるが、高齢になると短時間の昼寝は重要と考え、夜間の睡眠を妨げない程度の休息を促す声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局からいただく情報提供書で薬の内容や副作用を把握し、主治医とも協議の上、健康管理上必要な処置を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団行動になじめない入居者を個別ドライブにお連れしたり、屋外が好きな方には散歩にお連れしたり、その方の嗜好に応じた個別ケアを実践できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にイベントとして外出の機会を設け、季節の移ろいを感じていただくようにしている。気分転換の散歩については、随時希望を聞き、対応するようにしている。	まきび公園や備中国分寺など、車で行ける適した場所が近隣に多くあり、月1回は皆で外出している。日々、外の空気に触れられるよう、庭の花壇や菜園を散歩したり、庭でお茶を飲んだり、飼っているヤギに餌を与えたりしている。車道から離れ、敷地が広いので、安全に散策しやすい。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則制限はないので、本人とご家族の判断で所持している方は、毎週車の移動販売でパン・お菓子類をスタッフと一緒に購入されることを楽しみにしている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある方については支援している。中にはクロスワードパズルの好きな方がいて、毎回職員と一緒に解答して、ハガキでの応募を楽しみにしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度管理表にて、各居室、リビングの温度、湿度は年間を通じてチェックし、必要な対応をしている。また、ボランティアの方が持参くださる季節の花でリビングを彩ったり、壁には季節に応じた工作物を入居者と一緒に作成し、飾りつけたりしている。	環境そのものである住空間作りに力を入れている。作品を飾った廊下やリビング、様々な観葉植物が置かれたウッドテラス、庭や菜園など、季節感と利用者の作品にあふれている。衛生面も徹底し、空間殺菌の装置を設置し、掃除の日を毎月設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一畳台でくつろげるスペースをフロアーにつくりだしたり、出来るだけ様々な生活スタイルに応えられるよう落ちつける場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、馴染みの家具、調度品の持ち込みをご家族にお願いし、居心地良く過せることを心がけている。	馴染みのタンスや仏壇などに囲まれ、各人の「城」となっている。職員は換気、温度湿度管理に気遣うと共に、各人の作品や花を飾る手伝いをし、和める空間にしている。清掃は毎日実施し、大掃除は月1回行っている。	居室は寝具や家具で埃が目立ちやすいので、毎日と月1回の各清掃のバランスの見直しを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持てる能力を生かし、役割、居場所を安全な形で確保すると同時に、自立を促す見守り支援を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373000136		
法人名	有限会社K＆Kプロデュース		
事業所名	グループホームまきびの丘		
所在地	岡山県倉敷市真備町市場303-1		
自己評価作成日	平成24年9月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、理念及び介護者の心構えとしての誓い文を全員で唱和し、徹底を図っている。また事あるごとに、職員会議等を通じ介護に対する考え方姿勢を浸透すべく力を入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会及び幅広いボランテイアの方々に来訪頂き、広く交流している。また地域の夏祭りなどに参加し、地域とのつながりを感じていただけるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近くの幼稚園児とその親御さんと一緒にコスモスの種まき、花の見学を行い、互いに触れ合うことで認知症の人の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの取り組み等について周知いただき、地域の方々との交流の場となっている。また、会議を通して認知症についての理解が深まり、意見交換が活発に行われ、そのことは大いにサービス向上に向けて生かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や提案について行政担当者と連絡を取りあっている。また運営推進会議にも出席を頂き、様々な情報を頂くと同時に行政に対する要望なども受け付けていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を常時開放することはもちろん、職員会議を通じ、身体拘束について勉強し、身体拘束をしないための方策を考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議を通じ、何が身体拘束、虐待にあたるのか共通認識を持ち、その防止について勉強し、話し合いを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらに関係する事柄が無かったので実践できていないが、今後クローズアップされてくるものと思われるので、理解や活用に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、契約内容について説明を行い、また改定等変更事項があった場合は、家族会や文書等で説明を行い理解、納得を得るよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のメンバーを同意を得て公表し、いつでも会長を通じたり、直接職員、管理者、施設長へ意見、要望が進言できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換の場を設け、施設の運営に関し疑問、提言があったら管理者、施設長に直接進言するよう常に働きかけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護労働センターや労働局の主催する研修に積極的に参加し、そのような方向で常に職場環境、条件の整備が出来るよう知識の習得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修には職員の力量に応じ、積極的に参加することでスキルアップの機会を設けている。また、ホーム独自に資格取得助成制度を設け、個々人が向上できる環境を整備し、助成もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者等連絡協議会に加入し、同協議会が主催する研修や分科会に参加することで、交流の機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、バックグラウンドを通じ、まず入居者のことをしっかり熟知することからスタートし、入居者が困っていること、不安に思うことを最優先にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から状況、要望を聞き取り、不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、ご家族及び入居者の不安を取り除くことを最優先で考えている。その後、状態等に変化があれば、ご家族に相談した上で、臨機応変の対応を考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まきびの丘の介護方針並びに会議等を通じ常日頃から入居者との接し方について話し合っている。また「共に生活をする」という視点を大事に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との密な関係を作れるよう家族会、面会等を通じ、共に支えていくという視点を共有できるように関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのベッド、家具等の持ち込みを促したり、近隣の友人、知人の方が来荘しやすい雰囲気づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両棟の入居者が互いに交流しやすいように、ウッドデッキを整備している。冬場にはそこにビニールを張って、防寒対策をし、常に入居者お互いが触れ合える場所として提供に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り、関係維持に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意思を尊重し、可能な限り本人本位の個別ケアを実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで利用されていた施設の担当者から、状態の把握や要望などを情報収集したり、ご家族に記入いただいた部分と聞き取りにより出来たバックグラウンドに基づき、入居者の生い立ちや生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケアカンファレンス、ケアチェック、モニタリングを行い、現状把握、将来に向けてのサービス計画に生かしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、またご本人の希望をベースに、関係者全員参加で介護計画を作成し、状態の変化に応じた計画に随時更新している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートで職員間の連絡を密に、個人ごとの情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態はもちろん、ご家族の状況やご要望に合わせた看取り介護を実践したり、その他ニーズに応じた柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の数多くのボランテイアの方々の訪問を受け一緒に楽しく、和やかなひと時を共に過している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療に理解のある主治医が、希望される大半の入居者の健康状態について把握してくださっている。また、月2回の定期往診で健康維持を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録、連絡ノート、引継ぎにより適切な受診が受けられるよう支援している。また、毎日健康で過ごして頂けるよう看護師の看護記録を活かし、介護職員が各入居者の共通の身体状況情報を得ることができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院については主治医や看護職員、介護職員が必要な情報提供を行い、安心して医療機関にかかれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族、本人と看取り介護についての意向調査を行い、ご家族の現状況、意向を把握し、対応に取り組んでいる。また実際に看取りに入った場合には、入所時契約書と同様、随時看取り意向の確認を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について介護日誌にファイル保存し、全員が常日頃から知識を習得できるように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火設備等災害対策に必要な確認項目を打ち合わせ、発生時の緊急連絡等確認している。今後さらに地域との連携体制の強化に努める。火災については「まず火を出さない」ことを徹底的に教育している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で可能な限り、個々の意思を尊重し、対応を心掛けている。また入居者と職員の信頼関係構築のため、職員間で対応の成功例を話し合うなどしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の生活上の役割（居場所の確保）分担を可能な限り促すような声掛けをし、自己決定には見守り支援で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まきびの丘の介護方針にのっとり、その人が希望するその人らしい生活のペースを実現できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気をつけ、衣服にふけ、髪の毛、食べこぼし等付着してないかチェックしている。また、定期的に近隣の理容師さんが来られ散髪をし、馴染みの関係となり、おしゃべりも楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	持てる能力に応じ、個々に自己実現の場を提供している。例えば、野菜の皮むき、お盆拭き、食卓台拭き、食後のお盆の片付け、手指消毒等を行ってもらうことで、協同意識が生まれるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については管理栄養士がいる業者から食材の提供を受けている。水分量の確保の重要性を職員間で共有し、摂取いただくための様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後や就寝前に、口腔内を清潔に保持するようにケアを行うと同時に、レクリエーションの時間に口腔体操を取り入れ、嚥下など口腔機能を向上させる取組みも行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてはなるべく薬に頼らず、出来る限り自発的に排泄出来るように努めている。また、日々の健康管理表をもとに排泄のパターンを把握し、適切なタイミングで声掛けできるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者については、便器に座ってから腹部に「の」の字マッサージを行うようにしたり、多めに水分摂取を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々人の意思を重んじ、希望やタイミングを考え支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望にもよるが、高齢になると短時間の昼寝は重要と考え、夜間の睡眠を妨げない程度の休息を促す声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局からいただく情報提供書で薬の内容や副作用を把握し、主治医とも協議の上、健康管理上必要な処置を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団行動になじめない入居者を個別ドライブにお連れしたり、屋外が好きな方には散歩にお連れしたり、その方の嗜好に応じた個別ケアを実践できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にイベントとして外出の機会を設け、季節の移ろいを感じていただくようにしている。気分転換の散歩については、随時希望を聞き、対応するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則制限はないので、本人とご家族の判断で所持している方は、毎週車の移動販売でパン・お菓子類をスタッフと一緒に購入されることを楽しみにしている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある方については支援している。中にはクロスワードパズルの好きな方がいて、毎回職員と一緒に解答して、ハガキでの応募を楽しみにしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度管理表にて、各居室、リビングの温度、湿度は年間を通じてチェックし、必要な対応をしている。また、ボランティアの方が持参くださる季節の花でリビングを彩ったり、壁には季節に応じた工作物を入居者と一緒に作成し、飾りつけたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一畳台でくつろげるスペースをフロアーにつくりだしたり、出来るだけ様々な生活スタイルに応えられるよう落ちつける場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、馴染みの家具、調度品の持ち込みをご家族にお願いし、居心地良く過せることを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持てる能力を生かし、役割、居場所を安全な形で確保すると同時に、自立を促す見守り支援を心掛けている。		